



平成二十九年 第二十一回 外国人留学生 奨学金受賞者紹介



熊本大学大学院医学教育部
研究生(消化器外科学分野)
布魯克

中国人留学生のブルコと申します。この度は肥後医育振興会奨学金に採用されて頂き、誠にありがたいと存じております。

中国での大学生時代に、独学で日本語を勉強して、日本の文化、生活や日本人の考え方についてすごく興味を持ちました。多くの時間を費やして日本語学習を行ったので、日本語でのコミュニケーションには自信があります。また、日本の医療のレベルは世界有数であり、高いレベルの医学を習得するのにふさわしい場所だと思えます。私の大学での専攻は臨床医学です。臨床医学を学んでいく中で、癌の代謝についてとても興味を持ちました。大学卒業を機会に、もっと高水準な教育と研究環境で自分を磨きたいと考え、海外留学を決意しました。

私は現在、熊本大学消化器外科教室で研究員として一足先に研究に従事しています。現在の研究テーマは、膵癌発癌に関与する代謝物についての研究を行っています。膵癌は癌の中でも最も予後が悪い癌の一つで、早期診断が非常に難しく、現在でも五年生存率は約五〜一〇%

と非常に予後の悪い癌です。この研究を行うことにより、膵癌発癌に関与するバイオマーカーを見つけることができれば、診断に難渋する膵癌や膵癌の予後向上に重要な意義があると思います。

今回の奨学金をいただきましたことにより、安心して研究に集中できる上、高い荣誉が与えられました。諸先生たちの期待に答えられるように精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



熊本大学大学院医学教育部
博士課程二年(生体微細構築学
分野)
DUANGCHIT SUJHAT

この度は、平成二十九年年度公益財団法人肥後医育振興会・外国人留学生奨学金の授与、ありがとうございます。

私は、タイからの留学生です。ナレスアン大学医学部の生理学講座で講師を務めています。熊本大学には医学博士の学位を取得するために来ました。二〇一六年に熊本に来てすぐに熊本地震に遭遇しましたが、研究室の人たちと助け合って乗り越えました。

現在、生体微細構築学分野の若山教授の指導のもと、細胞接着分子がどのように精子形成を調節しているのかを遺伝子欠損マウスを使って解析しています。最近、顕微鏡を使った実験にも慣れてきました。また、熊本地震で壊れた電子顕微鏡も新しくなり、研究に大変役立つと思います。研究で使用する抗体を得るために、抗原蛋白質を自分で作製し、ラットに免疫して作ることに成功しました。こ

うした実験手法はナレスアン大学ではできなかったもので、タイに戻ってから使える実験技術にしたいと思います。新しい実験手法を学ぶことができ、熊本大学に来てよかったと思います。

最後に、この受賞を励みに日々の研究を頑張っていきたいと思えます。



熊本大学大学院医学教育部
博士課程三年(微生物学分野)
張 田力

この度、肥後医育振興会の研究助成金をいただきました。誠にありがとうございます。

私は世界最先端の医療水準を持ち、基礎医学研究が精力的に行われている日本において、知識、技術を習得したいと考え、大学卒業後来日しました。現在の私は、「細胞内レドックスバランスによるNLRP3インフラマソーム活性化調節機構の解明」というテーマで研究を行っています。NLRP3インフラマソームは、体内に侵入した病原微生物を排除する生体防御機構の一種であり、インターロイキン1βの産生に関わる重要なタンパク質複合体です。本来は病原微生物の排除に極めて重要な役割を果たしていますが、尿酸結晶などの不適切な刺激によるNLRP3インフラマソームの活性化は、過剰な炎症応答の促進を通じて、自己免疫疾患、2型糖尿病、自己炎症性疾患など複数の病気の発症に関与することが明らかになりつつあります。そのため、NLRP3インフラマソームの活性化の分

子レベルでの理解は、それら炎症性疾患の効果的な治療薬の開発や診断法の開発に不可欠であると考えられています。

私費留学生としての私は、地域差の為生活費や授業料などが一番大きな障壁となつていますが、今度の助成金を頂いて、本当に一時的に助けられました。もう一度会員の先生方に心より感謝申しあげます。



熊本大学大学院薬学教育部
博士後期課程三年(創薬・生命科学専攻)
ADHIKARI DEVKOTA ANJANA

この度、肥後医育振興会から外国人留学生奨学金を賜り、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

私はネパールのポカラ大学の修士課程(薬学)を修了し、平成二十七年十月に熊本大学大学院薬学教育部薬用植物学分野に入学し、現在博士後期課程三年目です。

私は「薬用・有用植物の機能性成分の探索」というテーマで研究を行っています。これまで熊本県河内産ウンシュウミカンの花と宮崎県日向市の特産物である柑橘類へブスの果皮と花の含有成分及び機能性の評価を行ってきました。これらの結果が機能性食品等の開発に生かされればと思っています。

これからも、精一杯努力し、頑張ります。卒業後、ネパールに帰って日本で学んだ知識や経験を生かし、さらに教育研究を続けていきたいです。